



新機能および変更された機能

- [全国自殺防止ライフラインへの緊急コール](#) (1 ページ)
- [JTAPI プラグインのサポート](#) (1 ページ)
- [Manager Assistant からの Oracle JRE の削除](#) (2 ページ)
- [UDS パフォーマンスの向上](#) (2 ページ)
- [RTMT の Windows 2019 サポート](#) (2 ページ)
- [Expressway による IM and Presence ストリーム機能/サービスアダプタイズメントの改善](#) (2 ページ)

全国自殺防止ライフラインへの緊急コール

Unified Communications Manager は、「988」コールのダイヤルをサポートします。これは、全国自殺防止ライフラインセンターにルーティングされる3桁のダイヤルコードです。すべての通信キャリアおよび相互接続された Voice over Internet Protocol (VoIP) サービスプロバイダーは、自殺防止およびメンタルヘルス危機の担当者と接続するためにこのサービスを提供します。これは 2022 年 7 月 22 日から発効する FCC による自殺防止ホットラインの 3 桁のダイヤルコード対応義務化に対応するものです。

詳細については、<https://www.fcc.gov/suicide-prevention-hotline>を参照してください。

JTAPI プラグインのサポート

Cisco JTAPI プラグインは、リリース 11.5(1)SU9 以降、インストーラなしのアプローチに従います。Cisco Unified CM Administration インターフェイスにある zip ファイル (CiscoJTAPIWindows.zip または CiscoJTAPILinux.zip) をダウンロードするには、対応する Cisco JTAPI Client for Linux (32 ビットおよび 64 ビット) または Cisco JTAPI Client for Windows (32 ビットおよび 64 ビット) リンクをクリックします。

詳細については、『[Cisco Unified JTAPI Developers Guide for Cisco Unified Communications Manager, Release 11.5\(1\)](#)』の「インストール手順」の章を参照してください。

Manager Assistant からの Oracle JRE の削除

Oracle Java Runtime Environment (JRE) は、Cisco Unified Communications Manager Assistant プラグインに含まれなくなりました。

Cisco Unified Communications Manager Assistant クライアントを新しいバージョンにアップグレードする前に、次の手順を実行します。

- マシンに現在インストールされている Cisco Unified Communications Manager Assistant クライアントをアンインストールします。
- 32 ビットまたは 64 ビットの Windows プラットフォームに JRE をインストールします。

詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド](#)』を参照してください。

UDS パフォーマンスの向上

電子メールによる UDS 一括検索により、Cisco Jabber は、電子メール属性を使用してリクエストをバッチで送信し、UDS と Cisco Tomcat サービスによる CPU 使用率の上昇を防ぎます。

RTMT の Windows 2019 サポート

Windows 2019 オペレーティングシステムを実行しているコンピュータに Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool をインストールして、Unified Communications Manager をモニタまたはトラブルシューティングできます。

Expressway による IM and Presence ストリーム機能/サービスアドバタイズメントの改善

IM and Presence Service は、Cisco Expressway のモバイルおよびリモートアクセス (MRA) を介して接続するクライアントへの XMPP ストリーム機能/サービス (mdm:1、push:3 など) のアドバタイズメントをサポートします。

新しい設計は、混合バージョンの IM and Presence クラスタで構成される展開をサポートします。たとえば、一部の IM and Presence クラスタは 11.5(1) SU7 を実行し、一部のクラスタは 11.5(1) SU9 にアップグレードされます。これにより、クライアントは、エンドユーザーが割り当てられている IM and Presence サーバーのバージョンから、サポートされている、または有効になっているストリーム機能の正しいリストを常に取得できます。

このメカニズムを機能させるには、最小限の展開要件として、Cisco Expressway が X12.7 より古くないバージョンで動作しており、少なくとも 1 つの IM and Presence クラスタがバージョン 11.5(1) SU9 以降で動作している必要があります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。